



第 7 号の内容

【第1面】

主催講座の開催報告

【第2面】

- ・NPO って何だろう! ?
- ・万里一空(コラム)

【第3面】

- ・地域ではぐむ子どもたち

【第4面】

- ・お知らせ! 情報コーナー
- ・編集後記

【報告】

「団体運営のツボ入門」講座を開催しました☆



データも交えた、大変分かりやすく臨場感のある解説でした。

ふか おまさたか

【深尾昌峰氏を迎えて】

7月9日(火)午後、NPO や市民公益活動団体に関わる方、関心のある方を対象にした講座「団体運営のツボ入門」を開催しました。

講師は京都地域創造基金理事長であり、きょうと NPO センター理事でもある龍谷大学政策学部准教授の深尾昌峰氏でした。

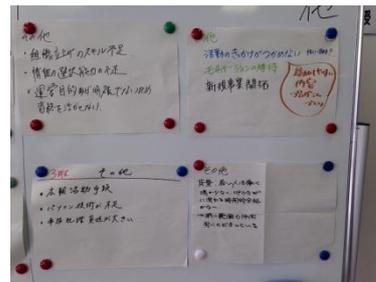
【ヒト・モノ・カネ・その他】

参加者は4つのグループに分かれ自己紹介のあと、活動の内容や悩みを出しあい、出た悩みを「ヒト」「モノ」「カネ」「その他」の4つに分類しました。その後グループごとに問題を整理し、紙に張り出して全体を眺めてみると、「団体内の高齢化」(若い人の参加が少ないことや継続に関する悩み)と、「運営資金の不足」(補助金の削減、助成金獲得の難しさ、寄附文化の未成熟等)について、どの団体にも共通しておりよく似た悩みを抱えていることがわかりました。

後半、それらの悩みを解決するため講師からいくつかのツボの伝授がありました。



熱心に解説される講師と、真剣に聞き入る参加者の皆さんの様子。前半のワークショップも大盛況! みなさん、お疲れさまでした!



ワークショップで出された、各班の意見。どの班も非常に活発な議論が繰り広げられていました!

【ヒトの巻き込み方】

「ヒト」の巻き込み方のツボは“泣き方(頼り方)”にあることです。“健全に人に頼る”方法を習得することによってそのコツがあるようです。「何もできない人はいない」という前提に立って、その人の(自覚していないこともある)“できること”を活かすプログラムや状況をつくることで皆がイキイキできる場ができてくるようです。

【目から鱗…寄附金の話】

「カネ」の悩みのうち寄附金に関して“目から鱗”の指摘がありました。ある調査の結果、寄附をしない理由の1位は「頼まれていないから」のようです。頼み方にまだまだ遠慮があるのかもしれませんが。また「寄附してください」と頼むより、「一緒に寄附を集めてください」と頼むほうがより多くの寄附が集まるという事実(ツボ)も、説得力がありました。

現場で長い間リーダーシップを取られている講師からのツボは、困っている団体に常々真剣に向き合い、何とかしたいとの思いがよく感じられるものでした。

NPOって何だろう!?

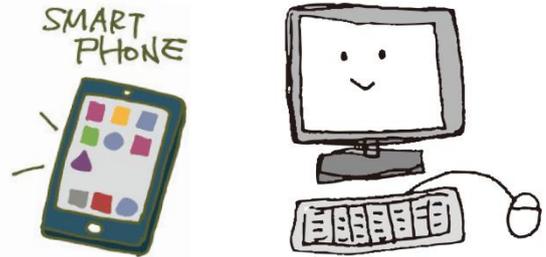
NPOの特徴のひとつとして、市民の信頼を得て、市民により育てられるという点があります。そのためには、自分たちに関する情報をできる限り公開することを通して、市民に活動を知ってもらい、賛同を得ることが大切です。

NPO法人が、本当に公益性のある活動をしているのかどうかの判断は、行政ではなく市民が行います。NPO法では、法人設立の申請が行なわれると、事業計画書などを2ヶ月間、一般に公開しなければなりません。

また毎年、事業年度が終了すると、事業報告書などを所轄庁(奈良市の場合は奈良県)へ提出することが義務付けられています。これは、提出された事業報告書を公開することで、市民が監督できることを目的としています。行政の監督を必要最小限にとどめ、団体の組織、活動内容、会計などの情報を広く市民に公開することで、市民自身によって判断される仕組みになっています。

「情報をオープンに」

～市民からの賛同を得るために～



法人格を持たない任意団体などのNPOには、情報公開の義務はありません。しかし、ホームページやチラシなどを通じて、積極的に情報発信を行っているNPOもあります。

活動をすすめていく上で不可欠な、同じ思いを持つ仲間や、活動を理解して支えてくれる支援者を集めるためには、自分たちが理想とする社会像や理念を明確に説明する必要があります。多くの市民の賛同を得るためには、そういった情報公開が欠かせないといえるでしょう。

万里一空

第7回

「“なんでもいい”の内側」

ボランティアコーディネーター 土屋 有加

「なんでもいいから、ボランティアしたいんです」
窓口でこんなふうに取り出す活動希望の女性。
決していい加減な雰囲気はない。ふんふん、と私。
「何か面白そうだなと思う活動や分野って、ありますか？」

「いえ特には…。なんでもいいんです」
実はこれ、コーディネートをしているとよく出くわす場面なのである。

何かしたい、そんな気持ちは大きく持っている。
ただ、自分が何をしたいのか、何をしたらいいのかわからない。そんな思いが「なんでもいい」という言葉になって表面化しているのだ。

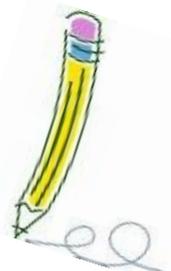
コーディネーター1年目の頃はこれがどうしても理解できなかった。非常に悩み、対応に苦しんだ。

しかし、この言葉の内側を掘り当てていくことこそ、私たちの大事なシゴトなのである。本人が本当にやりたいと思っていることや潜在的に持っている理想図を、時間をかけ言葉を選び、引き出していく。

そんな中で「やっぱりこんな活動がいい」とか「こんな人たちと活動したい」なんて具体的な言葉が一言でも出てきたら、活動探しは大前進!

あくまで本人が自らやりたいことに気づき、自ら動き出すことが大事なのだ。そして私たちコーディネーターは、そのきっかけづくりに回るサポート役。

もちろん奔走は惜しまない。
明るくて前向きな「なんでもいいからボランティアしたい」に出会うのが、今日も楽しみだ。



地域ではぐくむ子どもたち

子どもたちがいろいろな大人に会える。

そう語るのは、平城西中学校区地域教育協議会（以下「協議会」）で総合コーディネーターを務める小西さん。5年前に「学校支援地域本部事業」がスタートしてから、ボランティアを積極的に募集し始め、登録ボランティアの数は、神功小学校区だけで約110名。放課後子ども教室の先生を合わせるとさらに増えるとのことである。登録したボランティアの方は、週2回、学校での剪定や草刈り、図書室の本の整理整頓などの活動を行う。特技がある方は放課後子ども教室の先生として登録し、子どもたちにさまざまな技を教えている。誰でも出来る『ボランティア』と、何かに特化した『先生』とを掛け持って登録されている方も多く、地域ぐるみで活動に関わっていることがうかがえる。

今回は・・・

平城西中学校区地域教育協議会
総合コーディネーター 小西 桂子さん
にお話を伺いました



将来に対して夢が持てる。

「楽しそうやなって誰かが思ってくれたら、この協議会は意味があると思うんです。楽しそうなおじいちゃん、おばあちゃんが居たら、子どもたちが将来に対して夢が持てると思うんです。」と小西さんは言う。

今や、先生より先にボランティアさんが「草刈りどうする？」って校長先生に言ってこられるそうで、先生も、ボランティアさんが草刈りをしていることを子どもたちに伝えるなど、「やってあげてる」「してもらってる」ではなく、みんなで学校の運営をどうするかを考えている様子であった。

「ワンブロック隣の子が、ボランティアの方と道で会ったら挨拶する。それが、回数が重なると『知ってる人』になるんですよね。これが仕掛けですね。そして、子どもたちが大人になって、地域でボランティアをする人になるんです。」その言葉から、地域と学校とが一体となって子どもを育むのだという、強い気持ち伝わってきた。

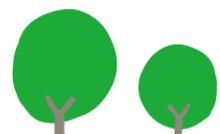


動いてくださった方にも 嬉しいコトがないと長続きしない。

「学校の中に地域の方が定期的に入ってくることは今まで無かった。子どものためというのも大事だが、動いてくださった方にも嬉しいコトがないと長続きしない。」と小西さんは話す。これまで隣近所はもちろん、離れた人たちとの付き合いがゼロだったところに、平城西中学校の剪定ボランティアの方たちが、各学校での「ボランティア紹介」をした後、一緒に飲みに行ったというエピソードからも、地域の中で仲間が出来て、楽しく活動している様子が伝わってきた。「自分たちにとって持って帰ってもらう部分があって、活動がより充実していくという、ベストなカタチになりつつあるのでは。」と小西さんは続ける。



6月15日に開催された
「学校支援ボランティア交流会」の様子。



お知らせ！情報コーナー



新コーディネーターの紹介 土屋 有加 (つちや ゆか)



京都市内で約4年間ボランティアコーディネーターをしていました。
私にとってまだまだ未知の地・奈良でいろんな方に出会えるのを楽しみにしています。
どうぞよろしくお願ひします。

毎月25日はボランティア入門講座

当センターでは、平成25年度は、毎月25日に「ボランティア入門講座」を開催します。8月～10月の開催日時は以下の通りです。ぜひ、ご参加ください！

日時：8月25日(日) 10:00～12:00

9月25日(水) 13:30～15:30

10月25日(金) 18:30～20:30

場所：ボランティアインフォメーションセンター会議室

締切：各開催日の1週間前まで

申込：講座名、開催日、氏名(ふりがな)、電話番号を明記の上、電話かFAX・Eメールでお申込み下さい。

ボランティア活動先一覧 夏号発行！

情報コーナーのおすすめ本！



ボランティアをしたいけど、自分に合うボランティアがあるかな？



ボランティアを探しているんですけど



はい分かりました！

そんな方は、ぜひご覧ください！



※ボランティア活動先一覧夏号は、当センター他市内公民館・大学等に設置しています。奈良市ホームページにも掲載しています。



「寝ても覚めても市民活動論」

ミーティングや講座の帰り道に読む 35の視点
著者：早瀬 昇氏

ミーティングや講座の帰りふと日々の活動に疑問がわいたり、立ち止まってしまったとき、特にオススメの一冊。

読んでみると、「市民活動」を愛する著者もつ、35の独特の「視点」にモヤモヤとした気持ちがスッキリとなります。



奈良市ボランティアインフォメーションセンター

連絡先

〒630-8122

奈良市三条本町13番1号

はぐみセンター1階

開館時間：9:00～21:00(月～土曜日)

9:00～17:00(日曜・休日)

休館日：年末年始

TEL:0742-93-8435 FAX:0742-34-2336

MAIL:volunt-info@city.nara.lg.jp

URL: <http://volunt-info.jp>

※ホームページが新しくなりました！ぜひご覧ください！



※駐車場の駐車台数には限りがございます。できるだけ公共交通機関をご利用下さい。(満車の場合は、周辺の有料駐車場をご利用いただくをお願いします。)

【編集後記】

暑さもたけなわ…。日本の夏はどうしてこんなに暑くなったのでしょうか。市民活動もこのセンターを訪れて下さる方の熱い気持ちがあふれ、熱気ムンムンです。ひとり悩んでおられる方も、お気軽にご来館、ご相談ください。お待ちしております。



奈良市ボランティアインフォメーションセンター

検索

